

30-0743 W92-3

血清胸腺因子 FTS はシスプラチン腎障害を軽減する

○岩本 憲明¹, 高野 裕子¹, 幸田 祐佳¹, 河合 悦子¹, 粟屋 昭², 玄番 宗一¹
(¹大阪薬大・薬理, ²科技団)

【目的】我々は、胸腺ペプチドホルモンである *facteur thymique serique*(FTS)が、フリーラジカル性の腎障害を引き起こすとされるセファロリジンによる腎障害を軽減することを報告した。シスプラチン (CDDP) による急性腎不全の発症においてもフリーラジカルが関与することが言われている。今回、CDDP による腎障害および腎における ERK 活性化に対する FTS の影響について検討した。

【方法】SD 系雄性ラットを用い、FTS を CDDP 投与 24 時間前と直前に投与した。CDDP 投与 66 時間後に腎皮質から核画分を調製し、リン酸化 ERK 量をウエスタンブロット法にて検出した。腎障害の指標として、血漿尿素窒素(BUN)、血漿クレアチニン値および尿中へ排泄されたグルコース、NAG、タンパク質を測定した。CDDP の腎への蓄積量は白金として原子吸光法により測定した。

【結果】CDDP 投与 66 時間後において、BUN、血漿クレアチニン値および尿中へのグルコース、NAG、タンパク質排泄量が増大し、さらに腎皮質の核画分におけるリン酸化 ERK 量が増大がみられた。FTS を投与することにより、CDDP による腎機能障害および腎皮質におけるリン酸化 ERK 量が増大が軽減された。FTS は、CDDP 投与後の腎への白金の蓄積量に影響を与えなかった。

【考察】以上の結果より、シスプラチン腎障害に対する FTS の軽減効果に、少なくとも一部には、シスプラチンによる ERK 活性化を FTS が抑制することの関与が考えられる。